

第2次食育推進計画の概要（課題・取組の方向性・目標・評価指標）

※下線は第1次計画から追加した内容

取り組みの柱	課題（最終評価とアンケート結果を踏まえた課題）	取り組みの方向性	目標	評価指標
【1】 家庭における食育の推進	(1)乳幼児期からの望ましい食習慣の定着が必要(まず大人が食に関心を持つこと) (2)子どもや若い世代は、朝食の摂取から生活リズムを形成することが必要 (3)栄養バランスを考えた食生活の実践と定着へつなげるために、日本型食生活を推進することが必要 (4)乳幼児期から、特に朝食の孤食が増加傾向にあることから、家庭での共食の機会を増やすように働きかけることが必要 (5)生活習慣病の予防や重症化予防のために、適正な食事量の把握や野菜の摂取量増加につなげるための取り組みが必要 (6)高齢者の低栄養問題に関する知識の普及啓発から健康寿命の延伸につながる食育の推進が必要	(1)各世代を通じた健康的な食生活実践と定着を目指します (2)生活リズムの形成と、望ましい食習慣の習得を目指します (3)楽しい食卓づくりから共食を推進します	(1)栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとる人の増加 (2)朝食を欠食する人の減少 (3)朝食を家族と一緒に食べる機会がほとんどの子どもの減少 (4) <u>食事のあいさつが習慣化している子どもの増加</u> (5) <u>食事づくりに参加する人の増加</u> (6) <u>ゆっくりよく噛んで食べる人の増加</u> (7) <u>ベジ・ファーストを実践している人の増加</u>	① 1日2回以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合の増加 ② 朝食を食べる人の割合の増加 ③ 食事のあいさつがいつでもできる子どもの割合の増加 ④ 朝食を家族と一緒に食べる機会がほとんどない子どもの割合の減少 ⑤ 食事づくりにほとんど毎日参加する人の割合の増加 ⑥ <u>ゆっくりよく噛んで食べている人の割合の増加</u> ⑦ <u>ベジ・ファーストを実践している人の割合の増加</u>
【2】 ける 保育所・学校における食育の推進	(1)学校での食の指導力・実践力をより高めるために、受講率を上げていく体制づくりが必要 (2)学校での食育推進を家庭につなげるために、地域と連携しながら更なる取り組みが必要	(1)年齢発達段階に応じた食育をさらに推進します (2)給食を充実させ「生きた教材」として活用します (3)保育所・学校園、地域、保護者の連携を強化します	(1) <u>食育の推進に関する教職員の意識の向上</u> (2)食育を家庭へつなげ、食育に関心のある保護者の増加	① 公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率の増加 ② 家庭・地域と連携した取り組みを行った回数（のべ数）の増加
【3】 地域における食育の推進	(1)食育の推進ボランティアの数が減少傾向にあることから、魅力ある活動ができるような支援や会員増に向けた取り組みが必要 (2)食品の安全知識やの習得や、食品表示・栄養成分表示の活用から、食を選択する力を身につけるための取り組みが必要 (3)いざという時のために、非常用食料などを備蓄に関する普及啓発が必要 (4)地域の郷土料理を守るために、すべての世代を通して地域の食文化への理解・関心を高めるような取り組みが必要 (5)地域や家庭で受け継がれてきた料理や作法を受け継ぎ、また次世代へ伝えていくことの大切さを普及啓発することが必要	(1) <u>食を通じた交流の場づくりを推進します</u> (2)食に関する正しい知識の習得から、食の安全安心を確保します (3) <u>災害時に備えた食に関する知識と実践力を育成します</u> (4)地域の食文化を継承します	(1)食品の安全性について基礎的な知識を持っている人の増加 (2) <u>食を選択する力を身につけている人の増加</u> (3) <u>非常時に対応できる実践力を身につけている人の増加</u> (4)地域の郷土料理を知り、日常の食生活に取り入れている人の増加 (5) <u>地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の増加</u>	① 食品の安全性についての知識を持っている人の割合の増加 ② 栄養成分表示を参考にする人の割合の増加 ③ 非常用食料などを備蓄している人の割合の増加 ④ 郷土料理を知っている人、食べている人の増加 ⑤ <u>地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理等を継承し、伝えている人の割合の増加</u>
【4】 した食の恵みを活かした食育の推進	(1)保育所・学校園における体験活動（栽培活動）を今度も引き続き実施していくことが必要 (2)地産地消を推進するために、加古川産の食材への関心を高め、地域の特性に応じた食生活の形成や地域の活性化につなげるための取り組みが必要 (3)食品ロスなどの家庭ごみに関する情報発信から、食を大切にする意識を根付かせるための取組が必要	(1) <u>体験活動等による「農」への理解を促進します</u> (2)地産地消を推進します (3) <u>「もったいない」意識から、食品ロスの削減に向けた取り組みを推進します</u>	(1)地域の農畜水産物を積極的に活用する人の増加 (2) <u>食を大切にする意識も持っている人の増加</u>	① 市内産・県内産の食材を使うよう心がけている人の割合の増加 ② <u>食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合の増加</u>
【5】 の食育推進の環境づくりのため	(1)食育という言葉とその意味を、引き続き普及啓発し、食育の実践へつなげる必要がある (2)関係団体等と連携し、食育に関心を持ってもらえるような新たな取り組みを展開していくことが必要	(1)食を通じたネットワークづくりを拡充します (2) <u>食育への関心を高め、食育の実践を目指します</u>	(1) <u>食育に関心のある人の増加</u> (2)自分らしい食育を実践している人の増加 (3) <u>食育の推進に関わるボランティア数の増加</u>	① 食育に関心のある人の割合の増加 ② 食育活動を実践している人の割合の増加 ③ 食育の推進に関わるボランティア（食生活改善推進員）数の増加